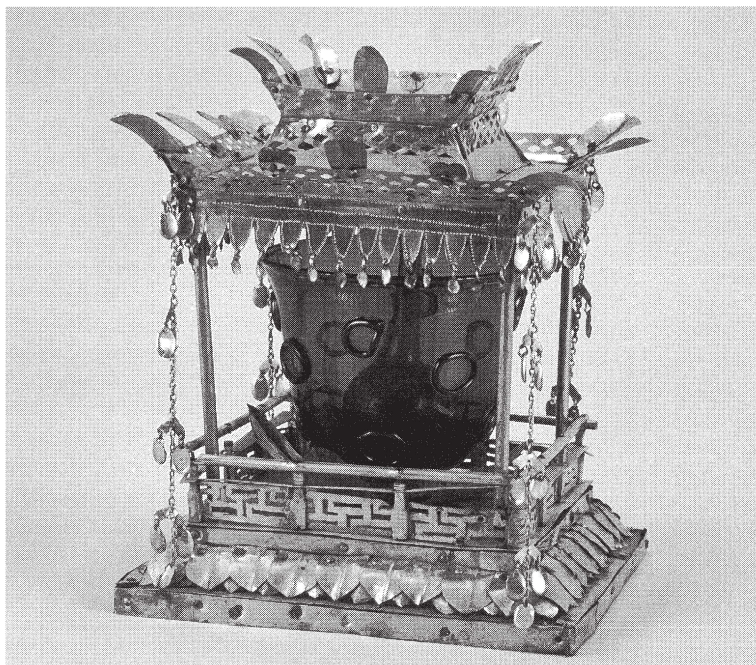


第38号

# 奈良 国立博物館 だより

平成13年 7・8・9月



## 特別展

ぶつしゃり ほうじゆ しゃか した  
仏舎利と宝珠—釈迦を慕う心—

東・西新館

7月14日(土)～9月2日(日)

## 特別出陳

やくしじ  
薬師寺 重要文化財 銅造薬師三尊像

西新館 7月14日(土)～9月2日(日)

9月18日(火)～

## 特別陳列

おかでら  
岡寺の歴史と美術

東新館 9月18日(火)～10月8日(月)

## 平常展

仏教美術の名品

本館 6月26日(火)～

西新館 9月18日(火)～

## 特集展示

だいぶつでんよう し てんのうぞう  
大仏殿様の四天王像  
じぞう ぼさつ  
地藏菩薩とその周辺

本館 6月26日(火)～

## 特別出陳

とうしょうだいじ もくしんかんしつやくし によらいりゅうぞう  
唐招提寺 国宝 木心乾漆薬師如来立像

本館 6月26日(火)～

### 【写真解説】

韓国宝物 しょうりんじ  
松林寺五層磚塔発見舍利容器

(韓国・国立慶州博物館蔵)

韓国・慶尚北道の松林寺五層塔の二層目から発見された舍利容器。韓国の代表的な舍利容器であり、韓国の「宝物」に指定された名品。金銅製の舍利殿に緑色の瑠璃（ガラス）製の盃を置き、その中に薄い緑色の瑠璃製舍利瓶を入れている。瑠璃盃は輪状飾りを付けており、正倉院宝物中の紺瑠璃杯と酷似するもので、ベルシャ製と推測されている。日本初公開。

## 特別展

### 仏舎利と宝珠－釈迦を慕う心－

東・西新館 7月14日(土)～9月2日(日)

舎利は仏教の開祖、釈尊の遺骨をいいます。舎利は釈尊をしのぶようとして、釈尊の没後まもない古代インドにおいて始まりました。仏教の伝播とともに、舎利信仰も中国、韓国、日本へと伝わりました。日本では最初インド以来の伝統にのっとり塔の内部に舎利が安置されましたが、平安時代のはじめより堂内に舎利を安置して、直接礼拝することが盛んになりました。やがて、舎利は如意宝珠（あらゆる願いをかなえたとされる不思議な玉）と同一視する密教の教えも加わり、わが国独自の舎利信仰が展開しました。

舎利を美しく荘厳した容器に納入することは既に古代インドで行われていましたが、その伝統は中国・韓国・日本に受け継がれ、数多くの優れた作品が生み出されました。しばしば舎利は釈尊の遺骨として仏像にも等しい豪華な荘厳が施されました。また信仰の内容によって荘厳の形式も変わるなど、多様さもそなえています。

今回の特別展は新資料をまじえつつ、舎利荘厳の名品が一堂に会するものです。海外からの出陳品には、松林寺塔発見舎利容器（韓国・国立慶州博物館所蔵）、羅原里五層塔発見舎利容器（韓国・国立中央博物館所蔵）など、わが国で初めて公開される作品があります。釈迦を慕う心が生み出した美の世界をご鑑賞ください。



木製彩絵舎利容器（東京国立博物館）

## 特別陳列

### 岡寺の歴史と美術

東新館 9月18日(火)～10月8日(月)

奈良県明日香村に位置する岡寺（龍蓋寺）は天智天皇の勅願にて創建されたと伝えられる古刹です。この特別陳列では同寺に伝来した数々の寺宝を一堂に展覧し、また近年、五百数十年の時を経て再建された三重塔にこのほど設置される壁画もあわせて公開します。

＜主な出陳品＞ ●木心乾漆義淵僧正坐像、◎銅造菩薩半跏像、  
◎木造釈迦涅槃像、◎天人文磚



●金亀舎利塔（唐招提寺）

## 特集展示

### 大仏殿様の四天王像 地蔵菩薩とその周辺

本館 6月26日(火)～

このたび本館第12・13室では、彫刻の多彩な魅力を発見していただくため、テーマ特集を行うことになりました。テーマは数ヶ月ごとに替わります。「大仏殿様の四天王像」では、東大寺大仏殿の四天王像の形式にならって作られ、このほど修理が完成した海住山寺像と、やや姿の異なる霊山寺像を比較展示します。また「地蔵菩薩とその周辺」では、地蔵盆の季節にあわせ、六道輪廻に苦しむ衆生を救う地蔵菩薩関連のさまざまな彫像を陳列します。

## 平常展

### 仏教美術の名品

本館 6月26日(火)～

西新館 9月18日(火)～

本館では、飛鳥時代から鎌倉時代に至る仏像を中心とした日本彫刻、及びその源流ともいうべきガンダーラや中国などの諸作品を幅広く紹介しています。西新館では、仏教美術の名品を絵画・書跡・工芸・考古のジャンル別に展示しています。多数の国宝・重要文化財が含まれており、随時展示替えも行なっています。



◎木造明星菩薩立像（弘仁寺）

## ◆奈良国立博物館友の会カードの発行について◆

### 特典（登録者ご本人のみの特典）

- ・奈良・東京・京都国立博物館の平常展を無料でご観覧いただけます（特別展・共催展等は各展1回限り）。
- ・当館のミュージアムショップで当館発行の展覧会目録（共催による展覧会目録を除く）を各1部、1割引で購入できます（奈良国立博物館のみで有効）。

### 販売方法

- ・奈良国立博物館新館の観覧券売場で随時販売しています。その際、申込書等に必要な事項を記入願います。開館日にはいつでも購入いただけます（販売時間は、閉館30分前までです）。

料 金 年間3,000円

通用期間 購入時から翌年同月の末日まで。

\*お問い合わせ先 学芸課企画室 電話0742-23-5962（月～金曜日の9時から17時まで）



特別展「仏舍利と宝珠－釈迦を慕う心－」 東・西新館

仏伝図浮彫〈涅槃図〉、仏伝図浮彫〈納棺図〉（以上個人）、仏伝図浮彫〈荼毘図〉（当館）、仏伝図浮彫〈分舍利図〉、仏伝図浮彫〈ストゥーパ図〉（以上個人）、石製壺形舍利容器・石製塔鉢形舍利容器・石製蓮蕾形舍利容器〈ソーナナリ第二塔出土舍利容器のうち〉、石製舍利容器〈サーンチー第二塔出土〉、水晶製舍利容器〈ボージュブル第二塔出土〉（以上英国・ビクトリア・アルバート美術館）、野鴨形水晶製舍利容器（英国・大英博物館）、片岩製舍利容器および内容器（東京国立博物館）、石製舍利容器（京都国立博物館）、石製舍利容器（当館）、石製棺形舍利容器（和泉市久保惣記念美術館）、金銅製槨形舍利容器・金銅製棺形舍利容器・石製函（泉屋博古館）、石製棺形舍利容器（藤井斉正会有鄰館）、銀製棺形舍利容器（久保惣記念美術館）、金銅製棺形舍利容器（当館）、石製方形函（個人）、木製彩絵舍利容器、壁画ドロナ像、キジル第三区マヤ洞壁画模写（以上東京国立博物館）、真珠舍利宝幢・真珠舍利宝幢模造・木製外箱〈瑞光寺塔基発見〉（中国・蘇州博物館）、金銅製舍利容器（松林寺五層磚塔発見）（韓国・国立慶州博物館）、金銅製舍利容器・三重小塔・九重小塔〈慶州羅原里五層石塔出土〉（韓国・国立中央博物館）、重美金銅八角舍利容器〈伝全羅南堂順天郡光陽出土〉、重美金銅製舍利容器および銀製内容器等〈慶州市南山出土〉（以上東京国立博物館）、金銅製舍利容器（個人）、飛鳥寺塔心礎発見舍利荘厳具（奈良国立文化財研究所）、●崇福寺塔心礎納置舍利容器（近江神宮）、◎山田寺塔心礎納置銅製舍利容器（岐阜・山田寺）、◎法輪寺塔心礎納置銅壺（法輪寺）、◎仏舍利縁起（法輪寺）、◎摂津三島廃寺塔心礎納置舍利容器（東京国立博物館）、◎伊勢縄生廃寺塔心礎出土舍利容器（文化庁）、●銅板法華説相図（長谷寺）、●金亀舍利塔・白瑠璃舍利壺・方円彩糸花網（唐招提寺）、◎日供舍利塔（唐招提寺）、金亀舍利塔（東大寺）、金亀舍利塔（長谷寺）、◎金銅舍利塔、●金銅密教法具、●絹本著色五大尊像（以上東寺）、●絹本著色十二天像（京都国立博物館）、●両界曼荼羅〈伝真言院曼荼羅〉、◎弘法大師請来目録（以上東寺）、◎弘法大師二十五箇条遺告（当館）、両界曼荼羅（西大寺）、◎金銅宝塔（東京国立博物館）、金銅宝塔および舍利容器（福岡市美術館）、金銅宝塔（当館）、◎金銀装舍利壇（岩手・中尊寺）、●宝相華蒔絵宝珠箱（仁和寺）、●金銅宝塔・金銅製如意宝珠・水晶製五輪塔、錦袋等、●鉄宝塔・五瓶舍利容器・金銅火焰宝珠形舍利容器、◎木造興正菩薩坐像、◎金銅八角五輪塔、舍利安置状（以上西大寺）、木造興正菩薩坐像（福智院）、◎金銅火焰宝珠形舍利容器（海龍王寺）、◎金銅火焰宝珠形舍利容器〈伝叡尊於伊勢感得〉（西大寺）、●金銅能作生塔（長福寺）、金銅能作生塔、宝珠台（以上海住山寺）、◎金銅火焰宝珠形舍利容器、◎摩尼珠像〈紙本白描及著色密教図像のうち〉（以上仁和寺）、如意宝珠曼荼羅（東京国立博物館）、如意宝珠曼荼羅（個人）、如意宝珠曼荼羅（三室戸寺）、◎悲花経（西大寺）、東長大事（群馬・慈眼寺）、◎感身学正記（西大寺）、◎法華寺舍利縁起（法華寺）、◎金銅密観宝珠形舍利容器（東京国立博物館）、◎金銅密観宝珠形舍利塔〈伝亀山天皇勅封〉（西大寺）、◎金銅密観宝珠形舍利容器（広島・浄土寺）、◎大神宮御正体（室生寺）、◎密観宝珠嵌装舍利厨子（般若寺）、密観宝珠嵌装舍利厨子（金剛山寺）、密観宝珠嵌装舍利厨子（興福寺）、五輪塔嵌装舍利厨子（西大寺）、宝篋印塔嵌装舍利厨子（兵庫・福田寺）、五宝珠・不動二童子・愛染明王図（広島・浄土寺）、阿字曼荼羅（東京国立博物館）、金銅火焰宝珠形舍利容器（個人）、愛染明王香合仏（東寺）、摩尼宝珠曼荼羅蒔絵厨子、火焰宝珠嵌装舍利厨子（以上個人）、漆塗舍利殿（高山寺）、◎首掛駄都種子曼荼羅彩絵厨子（当館）、稲沢市指定黒漆舍利厨子（愛知・性海寺）、黒漆舍利厨子（藤田美術館）、獅子座火焰宝珠形舍利容器（個人）、獅子座火焰宝珠形舍利容器（金剛寺）、伝北九州市出土経筒（当館）、●木造俊乗上人坐像〈俊乘堂安置〉（東大寺）、◎木造俊乗上人坐像（兵庫・浄土寺）、◎銅製五輪塔 附 水晶舍利塔・紙本墨書寄進状（滋賀・胡宮神社）、舍利相承記（胡宮神社）、◎銅製五輪塔（兵庫・浄土寺）、●水晶五輪塔（山口・阿弥陀寺）、水晶三角五輪塔（三重・新大仏寺）、◎板彫五輪塔（三重・新大仏寺）、金銅三角五輪塔および金銅蓮華形舍利容器（東大寺）、◎南無阿彌陀佛作善集（東京大学史料編纂所）、金銅五輪塔形舍利容器（広島・光明坊）、◎大和般若寺石造十三重塔内納置品より金銅舍利塔・金銅五輪塔・水晶五輪塔・舍利容器（般若寺）、◎山城浮島十三重石塔納置舍利容器（京都・放生寺）、◎木製五輪塔および内容品（能作生宝珠）（愛知・性海寺）、◎水晶舍利塔（滋賀・実蔵坊）、◎舍利塔 附金銅容器（四天王寺）、黒漆宝篋印塔舍利厨子、持蓮華形舍利容器（以上室生寺）、●金銅透彫舍利容器（西大寺）、◎宝篋印塔嵌装舍利厨子（当館）、大日金輪像（根津美術館）、◎絹本著色一字金輪仏頂曼荼羅（当館）、◎仏舍利安置状〈海住山寺文書のうち〉、◎覚真仏舍利安置状（以上海住山寺）、◎五輪塔嵌装舍利厨子（奈良・不退寺）、春日神鹿舍利厨子（当館）、金銅春日神鹿火焰五宝珠舍利容器、金銅火焰五宝珠舍利容器、春日神鹿御正体・朱漆塗唐櫃・添状（以上個人）、春日宮曼荼羅彩絵舍利厨子（東京国立博物館）、春日宮曼荼羅彩絵舍利厨子（個人）、黒漆舍利厨子〈春日神鹿彩絵〉（興福寺）、◎四方殿舍利厨子（能満院）、鹿座仏舍利および外容器（春日大社）、春日龍珠箱（文化庁）、◎金剛般若経・見返絹本著色稚児文殊出現図〈騎獅文殊菩薩像内納入造像関係文書のうち〉（東京・大東急記念文庫）、◎山王曼荼羅彩絵舍利厨子（聖衆来迎寺）、◎水晶五輪塔・錦袋等〈釈迦如来像納入品〉（西大寺）、◎水晶五輪塔・銅製筒形容器・錦袋残欠・錦袋等〈文殊菩薩像納入品〉（西大寺）、◎舍利塔・外箱〈釈迦如来像納入〉（京都・峰定寺）、◎舍利塔・舍利容器・舍利壺・錦袋〈大明国師像納入〉（京都・竜吟庵）、◎舍利容器・墨書（広島・安国寺）、金銅火焰宝珠形舍利容器・水晶五輪塔形舍利容器・宝珠形舍利容器・金銅舍利皿・紙本墨書付属文書（京都・正法寺）、◎金銅四大明王鈴（当館）、◎金銅宝塔鈴（静岡・尊永寺）、重美金銅宝塔鈴（東京国立博物館）、金銅宝塔鈴（東京国立博物館）、金銅割五鈷杵（岐阜・舎衛寺）、金銅割五鈷杵（京都国立博物館）、金銅五鈷杵（滋賀・弘法寺）、◎金銅鬼面独鈷杵等（神奈川・極楽寺）

特別出陳　本館

●薬師如来立像（唐招提寺金堂）

特別出陳　西新館

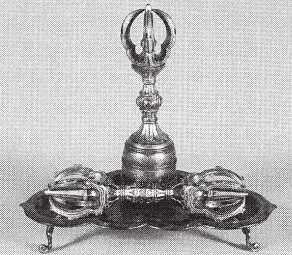
◎薬師三尊像（薬師寺講堂）

平常展「仏教美術の名品」 本館・西新館

本館 6/26～  
**【彫刻】第1室　飛鳥～奈良時代の彫刻**
◎脱活乾漆木造梵天立像、◎乾漆木造伝教脱菩薩立像（以上秋篠寺）、●木心乾漆義淵僧正坐像〔9/16まで〕（岡寺）、◎木心乾漆阿閼如来坐像（西大寺）、●脱活乾漆目犍連立像、●脱活乾漆舍利弗立像、●脱活乾漆緊那羅立像（以上興福寺）、◎木造西大門勅額（東大寺）、◎木造十一面観音立像（薬師寺）、◎銅造光背〈二月堂光背〉（東大寺）、◎銅造法華説相図（長谷寺）、◎銅造観音菩薩立像、◎銅造薬師如来坐像（以上当館）、



石製壺形舍利容器<インド・ソーナナリ第二塔出土舍利容器のうち>（英国・ビクトリア・アルバート美術館）



●金銅密教法具（東寺）

◎銅造誕生釈迦仏立像（正眼寺）、◎銅造誕生釈迦仏立像（悟真寺）〔9/16まで〕、銅造誕生釈迦仏立像、銅造誕生釈迦仏立像、銅造誕生釈迦仏立像、銅造誕生釈迦仏立像（以上個人）

**第2・3室　平安・鎌倉時代の彫刻**
◎木造阿弥陀如来立像〈裸形阿弥陀〉（浄土寺）、◎木造増長天立像（当館）、◎木造広目天立像（興福寺）、◎木造多聞天立像（当館）、●木造行賀上人坐像〈法相六祖像のうち〉（興福寺）、◎木造弥勒菩薩坐像（薬師寺）、◎木造十一面観音立像（元興寺）、◎木造千手観音立像（妙法院）、●木造薬師如来坐像（当館）、●木造薬師如来立像（元興寺）、木造如来立像（当館）、◎木造吉祥天立像（法明寺）、◎木造十一面観音立像（薬師寺）、◎木造聖観音立像（観心寺）、◎木造千手観音立像（園城寺）、◎木造十一面観音立像（勝林寺）、◎木造十一面観音立像（地福寺）、◎木造観音菩薩立像（セゾン現代美術館）、木造菩薩立像（当館）

**第4～6室　ガンダーラ・中国・朝鮮半島の彫刻〈ガンダーラ〉**
石造如来立像、石造菩薩立像、ストウッコ如来頭部、ストウッコ如来坐像、ストウッコ菩薩立像、ストウッコアトラス像、石造貴婦人群像（以上個人）、石造仏伝図浮彫（当館）、**〈中国〉**
銅造仏三尊飾板、銅造誕生釈迦仏立像、（以上個人）、銅造二仏並坐像（当館）、銅造菩薩坐像、銅造力士立像、◎木造諸尊仏龕（以上個人）、方形独尊坐像傳仏、方形阿弥陀三尊傳仏、方形独尊傳仏、小型独尊傳仏（以上当館）、多宝塔傳仏（個人）、石造如来頭部〈雲岡〉、石造菩薩頭部〈鞏県〉、石造如来頭部〈天龍山〉、石造菩薩半跏像（以上個人）、◎脱活乾漆力士立像（当館）、石造仏五尊碑像、石造仏立像、石造仏浄土碑群像、◎石造三尊仏龕（以上個人）、**〈朝鮮半島〉**
銅造如来立像（光明寺）、銅造如来立像（当館）

**第7～11室　日本彫刻の諸相**
木造十一面観音立像（広瀬区）、◎木造観音菩薩立像（本山寺）、◎木造十一面観音立像（海住山寺）、木造十一面観音立像、銅造如来立像（以上当館）、◎銅造菩薩半跏像（神野寺）、◎銅造菩薩立像（法起寺）、◎銅造観音菩薩立像（金剛寺）、◎銅造観音菩薩立像（法隆寺）、◎銅造菩薩半跏像（東大寺）、銅造菩薩立像（興福院）、銅造観音菩薩立像〈仏像型〉（個人）、◎銅造観音菩薩立像（観心寺）、銅造観音菩薩立像、銅造菩薩立像〈伝白山出土〉、（以上当館）、◎木造舞楽面・散手、◎木造舞楽面・貴徳（以上東大寺）、◎木造舞楽面・新鳥蘇（春日大社）、木造舞楽面・崑崙八仙、木造舞楽面・二の舞腫面（以上当館）、◎木造行道面（浄土寺）、木造阿弥陀如来坐像（当館）、木造阿弥陀如来坐像（金剛寺）、木造大日如来坐像（西城戸町）、木造阿弥陀如来立像（当館）、◎木造増長天立像（称名寺）、◎木造増長天立像（法増仏）、木造阿弥陀如来及両脇侍像（峰定寺）、木造阿弥陀如来立像（個人）、木造弥勒菩薩立像（林小路町）、◎木造十二神将立像〈辰・未〉（室生寺）、木造愛染明王坐像、木造如意輪観音坐像、木造十一面観音立像（以上当館）、◎木造馬頭観音立像（浄瑠璃寺）、◎銅造蔵王権現立像（大峰山寺）、木造蔵王権現立像、木造伊豆山権現立像（以上当館）、木造大將軍神坐像（大將軍八神社）、●木造八幡三神坐像（薬師寺）、◎木造狛犬、木造男女神像（以上当館）

**第12室　特集展示〈大仏殿様の四天王像〉**
◎木造四天王立像（海住山寺）、木造四天王立像（霊山寺）

**第13室　特集展示〈地蔵菩薩とその周辺〉**
◎木造明星菩薩立像（弘仁寺）、◎木造龍猛菩薩立像（泰雲院）、木造地蔵菩薩立像（十市町自治会）、◎木造地蔵菩薩立像（大福寺）、木造地蔵・龍樹菩薩坐像（当館）、◎木造地蔵菩薩立像（東大寺）、◎木造地蔵菩薩立像（長命寺）、木造地蔵菩薩立像（万福寺）、◎木造地蔵菩薩立像（春覚寺）、木造地蔵菩薩立像（長谷寺）、木造地蔵菩薩坐像（正法寺）

西新館　9/18～10/8

**【絵画】**◎仏涅槃図（正暦寺）、◎釈迦三尊像（頼久寺）、釈迦三尊十六善神像（西大寺）、釈迦三尊十六羅漢像（東大寺）、◎十六羅漢像（長寿寺）、◎五百羅漢像（大徳寺）、普賢十羅刹女像（能満院）、文珠菩薩像〈無隠元晦賛〉（当館）、◎法然上人絵伝〈第十六卷、第四・五段〉（奥院）、◎遊行上人縁起〈第八卷、第二・三段〉（光明寺）、◎禅宗祖師図〈馬遠筆〉（天龍寺）、霊照女像（当館）、◎夢窓国師像〈妙智院〉、一休禅師像、牧牛図、扇面面帖（以上当館）、◎嚴子陵・虎溪三笑図〈狩野山楽筆〉〈妙心寺〉、●六道絵〈等活地獄・衆合地獄〉（聖衆来迎寺）、十王像（陸信忠筆）（浄土寺）、◎阿弥陀浄土図〈伝清海曼荼羅〉（当館）

**【書跡】**◎慈覚大師伝（三千院）、◎類秘抄、華手経卷第十二〈五月一日経〉（以上当館）、大般若経（東明寺）、●紺紙金銀交書大般若涅槃経卷第十二〈中尊寺経〉（金剛峯寺）、◎法華経（長谷寺）、無量義経（禅林寺）、大般若経卷第一百四十七〈東大寺八幡経〉（当館）、大般若経〈海住山寺〉、阿毘達磨品類足論卷第七〈足利尊氏願経〉（当館）

**【工芸】**●蓮唐草蒔絵経箱、百万塔および陀羅尼、宝篋印塔（以上当館）、◎黒漆厨子（清涼院）、◎胴経筒（施福寺）、◎金銅透彫経筒（万徳寺）、●金銅透彫筆箴（神照寺）、◎金銅輪宝羯磨文戒体箱（金剛寺）、◎黒漆蒔絵戒体箱（万徳寺）、◎銅鐃（円福寺）、輪宝、羯磨、六器、金銅火舎、金銅華瓶（以上当館）、◎堆朱香合盆（聖衆来迎寺）、柄香炉（高山寺）、金山寺香炉（長谷寺）、◎五獅子如意（東大寺）、銅錫杖（施福寺）、銅錫杖、手錫杖、素文磬、孔雀文磬、◎金銅鐺口、◎梵鐘、梵鐘（以上当館）

**【考古】**
塑像〈雪野寺出土〉（個人）、塑像〈定林寺出土〉（当館）、蓮花文鬼瓦〈山村廃寺出土〉（個人）、蓮花文鬼瓦（奥山久米寺出土）、鬼瓦〈伝薬師寺出土〉（以上京都国立博物館）、鬼瓦〈伝中山瓦竈出土〉（当館）、◎鬼瓦〈大安寺出土〉、鬼瓦〈秋篠寺出土〉（以上個人）、隅木蓋瓦〈伝上野廃寺出土〉、◎石製九輪〈山村廃寺出土〉（円証寺）、◎栗原寺伏鉢〈談山神社〉、●東大寺金堂鎮壇具（東大寺）、靈安寺塔跡出土鎮壇具、◎佐井寺僧道薬墓出土品、◎山代忌寸真作墓誌、行基墓誌残欠（以上当館）◎銅経筒・滑石外筒〈伝福岡県出土〉、金銅厨子形経筒、銅経筒〈平治元年銘〉（以上当館）、●朝熊山経塚遺物〈経ヶ峯経塚出土〉（金剛証寺）、伝和歌山・白浜経塚出土品（以上当館）、◎藤原道長願経〈金峯山経塚出土〉（金峯神社）、紙本朱書法華経〈伝大分県出土〉、紙本墨書法華経〈粉河経塚出土〉（以上当館）、紙本墨書經〈紀伊王子神社経塚出土〉（王子神社）、◎銅板経〈長安寺経塚出土〉（長安寺）、瓦経〈飯盛山経塚出土〉、青石経〈大日堂経塚出土〉、泥塔経〈智積寺経塚出土〉、経塚出土鏡（個人）、◎線刻蔵王権現鏡像（金峯山寺）、◎伝福岡県出土経筒〈永久4年銘〉付如来像、◎長崎・鉢形嶺経塚出土弥勒如来像（以上当館）

◎=国宝　◎=重要文化財　出陳品は都合により一部変更する場合があります。



◎禅宗祖師図（馬遠筆）（天龍寺）



◎慈覚大師伝（三千院）





## 奈良博は堅苦しいか？

－「親と子のギャラリー 絵巻にしたしむ」展を観て－

奈良女子大学助教授 加須屋 誠

もちろん、奈良国立博物館が「仏教美術の殿堂」であるのは間違いない。これまで、私たちはここを訪れるたびごとに厳肅な面持ちで数々の国宝を拝観してきた。けれども、別の仕方でここに足を踏み入れることだって許される。肩の力を抜いてみれば、ほらね！奈良博ってこんなに「楽しい場所」なんだ——今回の展覧会は、こうした素朴な事実私たちがあらためて気づく機会、つまり、絵巻を前にして大人も子どもも作品を観ることの喜びを共感する機会として、なにより意義深いものであったように思われる。

たとえば信貴山縁起絵巻——米俵を納めた重厚な校倉がふわりと飛び上がる、あわててそれを追いかける人々の動作ときたら、まるでアニメの一シーンのよう。今回の会場には、このよく知られた場面がたっぷり長尺でぜひたくに展示されていた。あるいは華嚴五十五所絵巻——善財童子という少年が仏法の教えを求めて冒険の旅に出る物語はロールプレイングゲームみたい。旅の途中、童子が出逢った大天神は髪を逆立て、手が四本もある恐ろしげな姿。この大天神は、絵巻とともに今回展示された額装本華嚴五十五所絵や紺紙金字華嚴経見返絵（東大寺蔵）にも描かれている。会場あちこちを比較鑑賞してまわるうちに、私にはいつしか異形の神が個性溢れるマンガのキャラクターのごとく魅力的に輝いてみえてきた。遙かなる時を越えて、絵巻が現代の私たちの感性にストレートに語りかけてくれる場所、それが奈良博であった。

また、今回の展覧会のポイントは、個々の絵巻物とそれぞれに関連する文献史料とを並べて展示することにあり、これがなかなか面白かった。とりわけ私が感心したのは、難解な經典や古記録に簡潔で平易な訳文と解説文が添えられていたこと。おかげで絵画（イメージ）と言葉（テキスト）は互いに響き合い、小さな絵巻物にも深い奥行きがあることが察せられた。それは、美と信仰と歴史の奥深さにはかならない。

1990年奈良博では「仏教説話の美術」という大規模な特別展が開催された。今回の展覧会はその

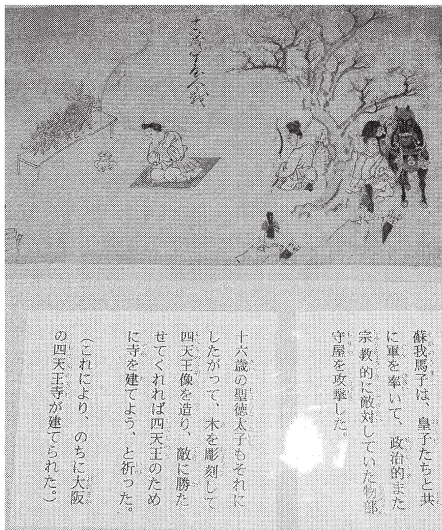
実績を踏まえて企画開催されたもの。けれどもそれは「絵巻はかく観るべし」というような特定の鑑賞法を強制するものでは決してない。むしろ、着実な研究成果は「絵巻の表層から深層まで、どこに目を向けても良いのだ」という、いわば鑑賞の自由を私たちに保証してくれる。

だから、たとえ親切な解説があるからといって、それをそのまま子どもに読み聞かせるのは大人の振るまいとして必ずしも正しくない。ここは、大人が子どもに一方的に絵の見方を教える場ではない。むしろ、まずはアニメやゲームに通じた子どもたちに大人はイメージとの戯れ方を素直に教わろう。そののちに、大人の知識と教養が戯れの奥行きを広げるのに少しは役立つ可能性に期待しよう。博物館という場では、大人も子どもも対等だ。

今私たちが求めているのは、親と子の対話の場として機能する博物館なのであるまいか。こうした時代の要請にこたえてくれる奈良博の将来に、私たちは大いに期待をしたい。



「親と子のギャラリー」開催時の新館付近概観



解説文を添えた展示品

（※独法化にともない外部評価が求められる昨今。今後は、随時展示評を掲載する予定です。）



## ◆公開講座

- 7月21日(土) 統一新羅の舍利容器の発展と特徴 韓国・国立中央博物館学芸研究官 崔 応天  
 7月28日(土) ガンダーラの聖遺物信仰 ―舍利を中心として― 京都大学人文科学研究所長 桑山正進  
 8月4日(土) 舍利をこめた密教法具について 大谷女子大学教授 阪田宗彦  
 8月25日(土) 仏舍利と宝珠を取り巻く人々とパワー 米国・イリノイ大学助教授 ブライアン・D・ルバート  
 9月1日(土) 仏舍利から宝珠へ ―密教における舍利信仰― 工芸室長 内藤 栄  
 いずれも午後1時30分より3時まで。当館講堂にて。聴講無料。ただし先着200名。

## ◆ギャラリートーク

- 7月11日(水) 地藏菩薩の彫像 研究員 稲本泰生  
 9月12日(水) 大仏殿様の四天王像 研究員 稲本泰生  
 原則として毎月第2水曜日に実施します。いずれも午後2時より。本館陳列室にて。入館者の聴講自由。8月は下記の特別展作品解説になります。

## ◆特別展作品解説

- 7月25日(水) 飛鳥時代の舍利容器 仏教美術資料研究センター長 井口喜晴  
 8月1日(水) 舍利信仰の革命 ―後七日御修法― 工芸室長 内藤 栄  
 8月8日(水) 舍利信仰と絵画 学芸課長 梶谷亮治  
 8月22日(水) 仏塔と舍利 ―インド・中国の場合― 研究員 稲本泰生  
 8月29日(水) 神道美術と宝珠 研究員 伊東哲夫

特別展にあわせて本館館員による作品解説を行います。いずれも午後2時より。当館講堂にて。聴講無料。

## ◆夏季講座

興正菩薩叡尊生誕800年記念『叡尊 ―鎌倉時代の仏教と舍利信仰―』をテーマに、夏季講座を開催します(日程7月17日～19日。会費3700円)。往復はがきに、郵便番号・住所・氏名・年齢・性別・電話番号・友の会の方は会員番号、返信はがきの宛先を明記して、「〒630-8213 奈良市登大路町50 奈良国立博物館教育室」にお申込みください。申込締切は、7月5日(木)(必着)です。問合せは、夏季講座係〔電話0742-23-5962〕まで

## ◆「親と子の文化財教室」受講者募集

小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。今年度は『飛鳥時代の歴史と美術』をテーマに勉強します。

- 第3回 7月14日(土)飛鳥時代の彫刻 研究員 稲本泰生  
 第4回 8月11日(土)飛鳥時代の絵画 美術室長 中島 博  
 第5回 9月8日(土)世界遺産の古寺をめぐる―法隆寺探訪― 学芸課長 梶谷亮治  
 研究員 伊東哲夫  
 第6回 10月13日(土)聖徳太子はどんな字を書いたのか 資料管理研究室長 西山 厚  
 第7回 11月24日(土)飛鳥時代の工芸品 工芸室長 内藤 栄  
 第8回 1月12日(土)人物・遺産で探る飛鳥時代の歴史 教育室長 宮田康和

○はがきに、「親と子の文化財教室参加申込」と記入の上、氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望される月日(いくつでもかまいません)を必ず記入して、[〒630-8213奈良市登大路町50 奈良国立博物館 教育室]まで、お申し込みください。(FAX可)  
 ○参加費は無料ですが、現地見学では拝観料金が必要です。定員は100名(先着順)です。会場は現地見学を除き、当館講堂において午前10時から12時まで行います。

## ◆ボランティアによる解説(ご案内)

ボランティアによる陳列作品の解説を展示室で行っています。団体の場合は、事前にご相談のうえ、ご予約をお願いします。ご予約・お問い合わせは教育室〔電話0742-22-7008〕まで。

開館時間 9時30分から17時まで(入館16時30分まで)

4月最後の金曜日から11月の第2金曜日までの毎週金曜日は、19時まで開館(入館18時30分まで)

休館日 月曜日(ただし、祝日の場合は開館し、翌日が休館)

観覧料金 毎週土曜日は、小・中学生無料。

特別展		大人	高・大生	小・中生
一般		830円	450円	250円
団体		560円	250円	130円

平常展		大人	高・大生	小・中生
一般		420円	130円	70円
団体		210円	70円	40円

※団体は責任者が引率する20名以上

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の企画普及室にお申し込み下さい。

〒630-8213 奈良市登大路町50 TEL0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレホンサービス0742-22-3331

ホームページ(URL) <http://www.narahaku.go.jp/>

奈良国立博物館